

第8回登別市総合計画第3期基本計画市民検討委員会まちづくり部会議事録

- ◆ 開催日時 平成26年10月3日（金） 18:30～ 20:30
- ◆ 開催場所 第1委員会室
- ◆ 出席部会員 部会長 中原 義勝
部会員 山田 正幸
田中 寛志
稲葉 一彦
松本 崇之
沼田 久人（庁内検討委員会 副部会長）
【市総務部企画調整 G 総括主幹】
- ◆ 欠席部会員 副部会長 渡部 雅子
部会員 工藤 隆行
川島 雅司
成田 育磨
- 事務局 【兼】沼田総括主幹、上野企画主幹、西川原主査、菊地主査
- ◆ 議題 「第6章担いあうまちづくり」に関する考え方及び体系図について

◎部会長

前回は「協働とは」について話し合いを行いました。今日はどの部分を中心に進めましょうか。

◎市庁内部会副部会長兼事務局

前回のお話しでは、これ以上協働について協議をしても、なかなか一定の方向性が見出しにくいことから、まずは次のテーマに進めようかということでした。

今日は第2節の【交流によるまちづくりの推進】についてお話ししたいと思います。このうち国際交流はお話しさせていただいておりますので、それ以外を対象にしたいと思います。

第2節以降を先に協議を行い、また協働をテーマとした部分に戻っていくのも良いのかなと思っています。

今日は広域行政の推進から進めたいと思いますが、いかにも行政的なところが多いところなので、まずはお話をさせていただいて、みなさんでご議論いただくというところはどうでしょうか。

◎部会長

ここは、市民にはあまり馴染みがない内容かもしれませんね。

◎市庁内部会副部会長兼事務局

当然、市民生活のためにやっていることですが、役所の中でやっていることが多いので、そういうこともやっているんだというところもあるかと思えますけど、そのような部分もお聞きいただきながら、お話しを進めたいと思います。

それではまずは第2節「交流によるまちづくりの推進」のうち「国内における交流の場と企画の拡大」について大まかな説明をしたいと思います。

◎事務局

交流によるまちづくりということで、その下にぶら下がっているのは「国内における交流の場と機会の拡大」「海外との交流の場と機会の拡大」「定住の地を求める人の勧誘と定住支援」があり、国際化の関係については、すでにお話をさせていただいたところです。

まず、「国内における交流の場と機会の拡大」というところですが、そこにぶら下がっている施策の基本的な方向としては、「国内の様々な地域との交流の推進」となっておりまして、さらにこの下に3つあります。

まず「広域行政の推進」ですが、行政運営については、通常は単独市のみで行うのが普通であります。

古くから広域の取組みはありましたが、合併が話題となった後からは、さらに注目されています。

我々が取組んでいるものとしては西いぶり広域連合というものがありまして、なかなか皆さんには馴染みがないかと思うんですが、例えば電算処理で、住民票の発行や税の計算などにコンピューターシステムを利用する部分なんですが、これは室蘭、伊達、壮瞥と一緒に3市1町で共同のシステムを利用して、少しでも安くしようと取り組んでいます。

それ以外にも観光では西いぶり観光圏や登別と白老の連携というようなものも取り組んでいまして、基本的な考え方としては、共通の課題についてはできるだけ広域で取り組み、スケールメリットを出しましょうという取り組みになっています。

次に「姉妹都市交流等の推進」ですが、登別は歴史的にも白石から開拓に入ったという歴史上のつながりから、宮城県白石市とは姉妹都市提携を結んでいます。

ですので、白石の物産展を行ったり、登別から白石に伺って物産展を行っていますし、様々な経済交流、子どもたちのスポーツ交流など民間交流も盛んになっています。

最近では、さらに白石市の姉妹都市である神奈川県海老名市とトライアングル交流ということで交流をしまして、3市が歩調を合わせて交流しています。

基本計画上ではこのような横の連携というものも大切にしながら、まちづくりというものを模索していきましょうというような作りになっています。

3番目の「札幌圏・首都圏における交流拠点の整備」についてですが、これも登別にお住まいの方にはなかなか触れ合う機会は少ないのかもしれませんが、東京には東京登別げんきかいという組織を、札幌では札幌のぼりべつ会という会を持っています。

首都圏、札幌圏の人々との情報交換やふるさと会のようなものに取り組んでいまして、その中から経済的、人的な交流というものを進めていこうと取組みを行っています。

また、国内外を問わず登別にゆかりのある方をふるさと大使に任命していきまして、その方にPRカード、名刺みたいなものをお渡しして、登別ブランドや温泉地など情報発信していただくという取組みに努めています。

◎市庁内部会副部長兼事務局

このような内容なのですが、まず一番最初の広域行政の推進ですが、まだ景気の良かった頃は、人口も増えるし行政も自然と税収が上がってくるということで、色々な施設を設置しようという流れが全国的にありました。

ですが今はそういう時代ではなく、それぞれのまちで、公共施設は大体同じようなものを持っている、図書館があったり体育館があったりします。

そういうものを全部それぞれのまちで、本当にそろえていくだけの体力があるのかとなります。

その様な状況から定住自立圏という国が進めている仕組みがありますが、合併ではありませんが、ある程度同じような機能の施設を持っているのであれば、この近辺で言えば室蘭のようなある程度の規模のまちの施設を皆で使いながらうまくやっつけられないのかというような取組みもしています。

一つのまちで何でも解決するのではなく、お金を出し合いながらなるべく負担を少なくして市民生活の低下につながらないように行政としては取組みを進めていこうと考えています。

今後クリンクルセンターで白老のごみを受け入れるということで、これも広域行政の一つです。

そのようなことを広域行政として市ではやっています。

ただ広域行政にもデメリットがありまして、皆でお金を出し合って一つのことをやっていますから、一つのまちの思いだけでは自由にならないところがどうしても出てしまいます。

この様な状況なのですが、この分野は役所が勝手に頑張ってやってくれというところなのかもしれないですが、皆さんどうでしょうか。

間違っている、間違っていないということではないと思いますが、皆さんから見て市民会館などが壊れて建てなくてはならないとなった時にすぐに建替えましようと言えない財政状況であることは、なんとなくわかってもらえると思います。

◎部会員

例えば広域行政の推進だったら、確かに対象となる事業はどのようなものがあるのか、現にやっている事業は何か、このようなことがきっちり整理されていないと、我々がよくわからない中で話を進めていっても結局は絵に描いた餅となる。

その中ではっきりした方がいいのは合併問題だと思う。

合併について室蘭なのか白老なのかということを含めて、一回話が持ち上がったきりで、室蘭の人は盛んに合併のことを気にしている、すべきだという声が強いの。

要は室蘭の今の人口の減少状況などから考えて、やはり観光とか登別と合併する魅力というのは持っている。

◎市庁内部会副部長兼事務局

昔は合併したら財政規模も増えていいことがあるのではないかと夢みたいところがありましたが、今はそんなことをしてもジリ貧ですし、登別のいい部分で稼いだお金が全部室蘭に吸い上げられて、登別の端っこの方は寂れてしまうのではないかとこのころは昔も今も変わらない不安だと思います。

◎部会員

今日の国会でも、地方の創生ということで取り上げていたが、登別に東京の人が来て生活が保障されるのか、働く場所があるのか。

受け入れる側もきっちりやらないと、国が予算付けしてくれるとやっていたらどうにもならない。

受け入れる側がまずそういう体制を示し、体制作りのためにはお金が必要だと意思表示をして、そのお金は国が助成しましょうとなるのだろうが、金をやるから何か考えれというのはおかしい。

登別は国が地方を活性化しようということでやっているときに、本来であればすでにプロジェクトチームなどを作って、登別市ではどう対応するかということを検討すべきだと思う。

◎部会員

合併論議は今まで見てきているが、結局のところは職員や議員の数を減らし、人手が少ないから住民サービスは明らかに低下するわけで、それでいて行政エリアは増える。

合併というのは一時のブームであって、住民サービスということを軸に考えた上での、延長線上の合併であればいいが、初めに合併ありきでものを考えていったら、飛び地合併みたいにとんでもない結果にしかならない。

登別の行政エリアの中で考えた場合、これから考えるのは人口減についてで、今住んでいる住宅地とか人口密集地を、人が住むところには当然生活のためのインフラが全部

必要であって、広ければ広いほどコストは莫大にかかる。

山の中にたった一人がポツンと家建てて住まわれると、極端にいうとその人のためにインフラを持っていかないといけない。

そこには住む自由があるかもしれないが、これから少子高齢化が一層進展して人が少なくなっていくと、「住宅エリアがここです、なるべくここに住むようにしてください」のような区分けをしっかりとする必要がある。

空き家対策の一環でもあるわけで、例えば離れ小島のようなところにいる人の不動産は行政が買い取るような仕組みを作って、その代わりに行政が新たに作った定住エリアに住む場所を用意するということによって、トータルコストを見ると、インフラ整備のコストというものもコンパクトになっていくだろうし、当然除雪とかそういった費用も小さくなっていくと思う。

まとまってくれた方が買い物にしても医療の面にしても、住んでいる住民もメリットを受ける。

そういう方向性でこれからエリア調整を行うことが、まちとしてやっていくべきことだと思います。

実際は不動産屋が実働するとしても音頭を取るのは行政がやらないといけない。

今ある不動産は行政が仲介して住めるような費用負担にしてもらうとかを考えていく。

インフラのリストラをやっていかないと、お金ばかりが掛かってどうしようもないと思います。

コスト削減といくら言っても難しいから密集してもらって、それ選択しない方には住民サービスが低下するというような取り決めや仕組みを作っていないと、まちとしてはどうしようもなくなり、1市ではできないから3つ4つ固まりましょうかという話になっていく。

住民サービスの質を落とさないためにも、今後はそれが一番大事だと思う。

◎市庁内部会副部長兼事務局

言うとおりでと思います。

基本計画の中でもコンパクトシティのあり方をどうすべきかは元々出ていますが、土地利用にあたっては、市街化区域と言う枠を定めて、その地域に都市整備をかけていきます。

そのために都市計画税をもらっていることと、ある程度住む地域を限定しながらやってきましたが、その仕組みは人が増えていく頃の制度ですので、どこのまちもおっしゃるとおりの状況になっていまして、現在国では土地適正化計画のようなものを作り、点在しているものを集約しつつ、その地域に商業圏も作り買い物難民などが出ないような利便性の高いまちづくりを行っていきなさいというように国は言っています。

ですが、そこが一番難しい部分となります。

例えばですが、人里離れて住んでいる人にその土地は市で買いますので、こちらに住

んでくださいとはなかなか言うことが困難です。

◎部会員

幸いにして登別には温泉があります。

この温泉を使えるような施設を作ることによって、魅力を感じられる定住地としての登別を作れば良いと思う。

ただ場所を移るだけなら嫌がるのも当然ですし、友達もいないなど地域とのつながりを断ち切ってまで行くメリットがあれば、当然に検討するわけですから、これからは温泉活用であって、温泉と住宅を合わせたような施設を作り、そこに移り住んでいただくようなことを検討するべきと思う。

◎市庁内部会副部長兼事務局

それはすごいインフラ整備で、すごくお金がかかります。

◎部会員

登別市が観光でまちの活性化を図るのか、それとも観光も含めた形で住みよいまちにするのか。

そのためには働く場所がなければならないし、そういう意味では、室蘭と合併すれば、大企業も中小企業があるわけだから、抱合せの方が人が集まりやすいのかとも思う。

観光のまちで住み良いですよと言っても、働く場所がなければ現役世代は集まらず、リタイアした人が来たって効果は薄い。

だったら若い人に魅力のあるまちを目指し、登別から出て行った人がUターンしてきたり、出ていかないでここに居を構えることを目指すべきだ。

室蘭には、すでに恩恵はいただいているが、登別として隣のまちをあてにしてとか、そういうことは言えない。

◎市庁内部会副部長兼事務局

登別市は室蘭市の工業地帯を背景としたベットタウンです。

そこには、室蘭に工業や商店街など都市機能があるが、住みよいのは登別だと裏を返せば言っている。

◎部会員

それだったら、伊達までひっくるめて総合的なまちにするとかすべきで、そこが見えないから何をすればいいのかわからない。

◎部会員

2市合併でも3市合併でもいいんだけど、住民サービスの低下があるようならば意味がないと思う。

人が減りましたので、今までのようなことはできません。

結局それが現実だと思う。

◎部会員

東京げんきかいとか札幌のぼりべつ会というのは、目的は何か。

◎市庁内部会副部長兼事務局

東京登別げんきかいとは元々ふるさと会で、登別から東京に行き住んでいて、退職し昔を懐かしむ人が集まったりして、年に何回か登別の情報をもらって、みんなで集まってワイワイとやる、こちらからも情報を提供しながら、例えばふるさと納税もしてくださいとか、ある程度お願いをしながらというところなんです。

一応掲げてはいますが、東京げんきかいに参加されている方で何かできるかというわけではありません。

札幌のぼりべつ会の方は、ふるさと会ではなく、経済交流などに主眼に置いて、登別にゆかりがあって、札幌で活躍している人たちと登別の地元の企業が、接点を持ちながら札幌進出など、そういうことができないかということで始めましたが、参加された方々もお年を召してきましてリタイアしていますので、ふるさと会のようになっているのが現状です。

札幌のぼりべつ会は札幌のぼりべつ交流プラザという取組みがセットになっていまして、それが商業圏との付き合いでしたが、なかなか難しいという感触を持っています。

しかしながら、意味がないから切り捨ててしまうのではなく、つては維持しながらも何かが出てくれば良いというところではあります。

こうしたことから、つながりは切らさないようにして、交流は続けていきたいと思いますところでもあります。

企業との関係とかも、商工労政グループで企業誘致など取り組んでいますけど、企業誘致の難しさは、進出してくる場所があるかということのももちろんありますが、既存の商売をやっている人の圧迫になるのかならないのかということも役所は考えてしまいます。

同じような業種がいっぱいあるところに、仮に本州の大きな企業がやってきたら、たぶんこのまちの企業は軒並みつぶれてしまうと思います。

本州の方は、ここでやっても駄目だなと思えばすぐに撤退しますので、そうなってしまったらこのまちに何も残らない状況となります。

それは避けなければいけません。

◎部会員

それであれば、登別は観光で生きていくと決め、しっかりと取り組んだ方が人が集まると思う。

◎部会員

先ほどの定住エリアのお話ですが各地区に温泉を引くとお金がかかりますので、銭湯を用意して、そこに転居した人が通年無料になるですとか考えられないのか。

市営のものを作ってもいいと思いますし、逆にいうとそれがすごい魅力になると思います。

そういうものを作れば、既存の施設も生きてきますし、新たに市が銭湯を建てるぐらいなら、そう管理は難しくないとします。

◎市庁内部会副部長兼事務局

その手法を採用したら、町内会ごとに銭湯を作ることにならないですか。

◎部会員

登別は観光のまちというのがシンボルがない。

市民が観光都市登別だと思えるようなシンボルが思い当たらないと思う。

例えば、玄関口あたりにファミリーランドを作って市民が安く風呂に入ったり遊んだり食事できたりするところを作るとか、函館みたいに漁港に朝市を設置し、温泉で朝食を食べないで漁港に来て食事をするなど、せっかく温泉に来た客をどう他の産業に還元するのか、札内あたりを開発して、富良野とか美瑛みたいな感じにするとか、観光の町と言っても温泉だけで、まち全体の繋がりが無い。

◎部会員

交流によるまちづくりといっても、まず市内の中で交流しないといけない。

温泉と他の地区が交流できて、温泉に行けば何度でも入れるとか、今はホテルばかりで、気軽に入れる公共の温泉がない。

他のまちに行くと、登別に住んでいるのなら、いつでも温泉には入れていいよねと言われるがそんなことはない。

そうではなくて、市民ならそこに行けばいつでも入れるという場所があるべきだ。

大きな温泉地であれば必ずそのような施設があるように思う。

もちろん、市町村との交流も大切だが、まずは地元の中の交流というのがすごく重要かなと思う。

◎部会員

登別市なり市民がこのまちをよくするためには何を指すんだというのが全然ない。
観光都市だといっても、市民はあまり実感が無いのが正直なところだ。

◎部会員

観光都市にふさわしいように、せめて他の地域から来る人がさすがだねと思うようにやるべきだ。

連合町内会では、国道などの草取りについて自分の町内の範囲はやってくださいと呼びかけている。

鉄南地区の旧国道などは雑草がほとんど無いです。

市民の意識しだいで、市がお金をかけなくてもやることができる。

◎部会員

市民が何かをやろうとしても、温泉が反対してできないとか、そういう話しか聞こえてこない。

温泉の中だけで経済の循環が終わってしまうのはもったいないと思う。

温泉には年間 300 万人、一日 8 千人近い人が来ていて、そのうちの一割でもいいからまちに流れてくれれば大きな効果となる。

◎市庁内部会副部長兼事務局

正直なところ温泉の行った後に、寄って行く所がない。

それで道の駅はどうかという話になる。

◎部会員

食べるものなど、客の心を引くようなものを見出すのが一番お金がかからなくていいと思う。

◎部会員

本当は、北大病院の跡地を市で買って、ホテルなり建てて、へき地対策だけでなく本州の人たちの移住対策として、そこに住んでくれたら近隣の温泉が無料ですよなどの魅力があると来ると思う。

◎部会員

定山溪などには、あちらこちらに足湯があるけど登別にはない。

◎部会員

広域行政については、現在一緒にやっている室蘭市とか伊達市はどう思っているのか。

◎市庁内部会副部長兼事務局

広域行政で取組んでいるのは、住民票を出したりするコンピュータで行うシステムを共同で行っている。

これはデータセンターを建ててサーバを設置し取組んでいます。

住民票や税など、市役所の場所で言えば概ね1階で使っているシステムは西いぶりに集約しています。

それぞれのまちで異なった事情がありますので、お金は出しあい一つのシステムを運用しますが、市民にとってなにが望ましいのか、それぞれのまちが考えて、お互いに喧々諤々としながら自分のまちのためにやっています。

◎部会員

自分のまちだけで運用しようとしたときに、莫大なお金がかかるので、それでは3市1町で構築しようということですね。

◎市庁内部会副部長兼事務局

広域でメリットのあることは出来るだけ広域で取り組みましょう。

ただ自分のまちにとって良くないことにはならないように役所は努力しています。

また、医療の関係も、この地域の医師会は室蘭にありますので、室蘭市民でないという理由で、何か不利益を被むらないように、いろいろ調整したりですとか、細かいところでも広域で取組んでいるものはあります。

国道の整備などについて要望を出す場合も、一つのまちより複数のまちで要望し、国や道に対する発言力を強化しています。

◎部会員

観光事業の連携を強化しますと書いてあるが、自分のまちだけでも大変なのに、他市との連携を取れるのかと思う。

◎市庁内部会副部長兼事務局

この様に素案では示しているが、この章にあるのは違和感がありますので、観光について記載している第3章でまとめて整理しようと考えています。

◎事務局

観光分野での広域の取組みとしては北海道登別洞爺広域観光圏や新幹線に関する取組み

も広域で行っています。

◎市庁内部会副部長兼事務局

少しずるい言い方になるが、自分のまちはきっちり守りながらも、他のまちをうまく利用させてもらいながら、登別市民にメリットがあればいいのかなと考えています。

◎部会員

新幹線が開通した場合、どのような影響があるのか。

◎市庁内部会副部長兼事務局

札幌まで延伸しても最寄駅は長万部駅までしか来ませんし、しばらくは函館北斗までです。函館からこちらへ観光客を誘導するのはなかなか難しいと思います。

そこに取り組むのでしたら新千歳空港から誘客のほうが現実的だと思います。

◎部会員

新幹線を利用してと言っているが、そうではなくて、もっと新千歳空港とのアクセスを改善すべきではないか。

◎市庁内部会副部長兼事務局

このテーマについては昨年新幹線が延伸されることを話題とした講演会に参加した時に、パネルディスカッションに参加していた専門家の方が言っていたのは、新幹線のメリットを享受することに取組むことは理解できるが、新千歳空港から胆振管内へのアクセスが弱く、南千歳で乗り換えなければならないという現実がある。

直接行けるようにしてアクセスを高めることが、新幹線論議よりも先という話を聞いて、もつともだと思って聞きました。

◎部会員

南千歳を通らずに新千歳空港駅へ行けるのが現実的だと思う。

新幹線ができたからと言って何のメリットもない。

このまちを通るわけでないし、仮に通ったとしても止まるかどうかもわからない。

◎部会員

現実問題として、東京からのアクセスを考えると、飛行機と列車のどちらを利用するかと考えれば、飛行機の方が早いし安い。

飛行機が嫌いな人は別ですが、やはり新千歳空港とのアクセスを良くする方が現実的で、今おっしゃったとおり、長万部からをあてにしても仕方がないと思う。

◎部会員

それを西いぶりで取り組んでいるのか。

◎市庁内部会副部長兼事務局

南千歳の関係については、ほとんど取り組んでいないのではないかと思います。

◎部会員

長万部でどの程度の間が降車してこちらに乗り換えてくれるか。

◎事務局

札幌で降りて、札幌を観光してから登別に来るのではないかと。

◎部会員

そうすると、新幹線の乗車人数は飛行機に比べ多くなることは無いのではないかと。

◎事務局

東京一大阪間は飛行機と比べ便利だから乗るのであってというところはあると思います。

◎部会員

最初のころに物珍しさで乗るだろうけど、いざ浸透すると思ったより少ないと思う。

◎市庁内部会副部長兼事務局

新幹線より、SLを走らせた方が、人が来ると思う。

◎部会員

SLはブームとなっている、大賛成だ。

SLを知らない年代が多くなっているから、定期的でもいいのでこの沿線を走らせるのは一つの名物になるし、観光のまちというのであればそのような事に取り組んでいくのも一つの手なのかもしれない。

新幹線に関しては、東京一大阪間はメリットがあるから乗るのであって、北海道は特急で十分なんじゃないかと思う。

ただ新幹線が来るから一部が喜んでる。

従来の北斗がなくなるのはやはりさみしい。

◎部会員

このまちのまちづくりを考えた場合、観光なら観光と特化してやっていかないとだめで

はないか。

その取り組みが競合すると言って、温泉地区が反対しても、それはそれでいいのではないか。

下は下で温泉を利用すべきで、たとえ温泉地区の妨げとなって登別温泉を利用するお客さんが減るのであっても企業努力をしてもらえない。

◎部会員

人が来れば温泉にも行くし、相乗効果はあるのではないか。

◎事務局

室蘭が鉄のまちなのは、その産業を中心に経済が回っているからそう思うのであって、登別は観光のまちと言っても相乗効果が薄いのかもしれない。

◎市庁内部会副部長兼事務局

産業クラスターと言って、温泉産業をいろいろなところに波及させましょうという取り組みがありました。

当然現時点でも経済的な効果は波及はしているのだろうが、鉄のまちほどのレベルではない。

広域行政についていろいろお話を聞きましたが、どうでしょうか。

◎部会員

もっと高齢者にとって魅力のあるまちづくりがこれからのキーワードだと思う。

ある程度お年寄りはお金を持っている人が多いですから、交通のアクセスが良くて快適に温泉が利用できてというのがあれば魅力的に感じてもらえると思う。

◎市庁内部会副部長兼事務局

広域行政もさることながら、もうちょっと自分のまちの魅力を考えていくということですか。

◎部会員

あとは中札内のガーデニング化、あそこは最適だと思う。

◎部会員

そうすれば、室蘭や白老からも人が訪れ、税収も微々たるものかもしれないが伸びていく。

小さな可能性からでもやっていかないといけない。

そして、温泉を無料にするのはどうか、温泉に特化するなら道の駅が必要、温泉のまち登別なんだから、そこに特化して、スーパー銭湯を作ったらどうなのか、その施設は原泉100%で提供することは無理でも登別の源泉が入っていますとなれば、おもしろいのではないか。

◎部会員

登別の温泉街には免税店はあるのか。

◎市庁内部会副部長兼事務局

免税店はないが、免税コーナーは始めたと聞いている。

◎部会員

温泉の中に作っても意味が無くて、下に降りてきてもらうために登別の駅あたりに免税店を作って、道の駅とタイアップすればいいのではないか。

国のふるさと創生の取組みではそういうことをやってほしい。

そのようなことを国会でも言っていたと思う。

地方へ行っても外国人が安いものを変える場所を作れば良く、全て大都市に集中するのではなくて、そうしないと地方に人は来ない。

◎部会員

クリンクルをもっと活かすべきだと思う。

市民プールの廃熱活用システムを、スーパー銭湯だとかに利用し、補えない分はボイラーで対応するとしても、経費は抑えられると思う。

室蘭にはフィットネスクラブは、結構人が入っている。

クリンクルセンター周辺にいろいろな施設を固めて、スーパー銭湯入り、道の駅で買い物して、花がきれいな札内へ行く。

◎市庁内部会副部長兼事務局

札内地区は同様の内容を多くの方がおっしゃってますし、確かにそのようになったらいいなと思いますが、なかなか手を付けられない状況にあります。

花をやってくれそうな人がいるならいいのですが、あの地域は皆さんが酪農で、あくまでも牧草と牛が中心となる。

酪農をやっている人たちは、伝染病の発生に神経を使っていて、仮に伝染病に罹患すると牛を全部殺すんだぞとなる。だから何とも言えないし難しいなと思う。

◎部会員

主要な施策の考え方は、これでは駄目でないか。

もっと具体的にすべきで「連携を強化します」とか「図ります」「協議を進めます」など、こんな言葉ではいけない。

「やります」「します」と、今協議したようなことをここに記載すべき。

この様な表現ではやる気がしない。

もう少し夢のあるような文言で、誰が見てもこれはいい、皆でやろうとなる。

まちづくりの中に一番大事なことは市民の意識改革で、それが一つも載っていない。

役所がやっている勉強会はそういう狙いなのだから、それを書けばいいのではないか。

意識を変えるために何をやるかを明記しないと駄目で、登別は観光で生きていく、だから市民皆で全市観光を目指そうと、そう書くだけで意識は変わる。

人を集めるためにはどういう施設が必要か、そういうことを載せる必要がある。

そう書いておいてもなお道の駅も施設もできない、その理由は温泉が反対するからなどと言っていたら意識は変わらない。

◎部会員

登別温泉に来て、例えばそこから豊浦のイチゴ狩りに行きたい、洞爺湖に行って帰ってきたいというようなミニツアー的な申し込みはあるのか。

◎部会員

私の会社ではこれとってはやっていない。

電話が来てこのように回りたいです、これぐらいの予算で回れますかという問い合わせが来ることはありますので、なるべく即答でこういう感じならいいですよと回答し、お受けしています。

◎部会員

ミニツアー的なものをルート化して、コースを作って、メニューを作って、各観光協会に置いておけば、結構需要があると思います。

その様な形で観光事業みたいなものをしていくと、潜在需要があると思う。

自分でもそういうのがあったらいいという思いがあって、バスで一緒に乗り合いとなるより、少人数で動ける方がありがたい。

◎部会員

登別には、すぐ取組むことができる資源がたくさんある。

鉾山にしても札内にしても、もしかすると些細なものを見落としていて、どうしても温泉に特化する傾向がある。

確かに、温泉ありきでいいのかもしれないが、第二第三の温泉の次となる柱を作るべきかもしれない。

◎部会員

登別イコール温泉で、例えば湯布院イコールそばなどグルメがない。

インターネットで検索しても、「登別 室蘭」でしか出ない。

出るのは室蘭焼き鳥やカレーラーメンで、食の部分で登別は何がというと頭をかしげる状態で、行政はもっと取り組んでほしい。

◎部会員

おいしいかおいしくないかではなく、発想で新しいものを作って。例えば札内にそばを植える。

蕎麦は意外と土地がやせていても育つから、全部を蕎麦畑にしてしまう。

◎事務局

そばの花もきれいですね。

◎市庁内部会副部長兼事務局

それはちょうどいい。

◎部会員

そういうのをもっと市がPRして、皆にまちづくりだけでなく食や観光都市につながるようなものを発想してもらおう。

◎市庁内部会副部長兼事務局

今、3章の方で登別を代表できるグルメはないから、それを作りましょうというのほうたっている。

◎市庁内部会副部長兼事務局

今回の範囲になりますが、移住の関係で「登別暮らし」というパンフレットを作成しました。

今回の移住のコンセプトは、観光のみではなくて登別ではこういう暮らし方ができますよという提案型のものにしました。

移住をしてきても、町内会など市民活動がありますので人と人のつながりがありますよとか、実際に移住した人の話など記載しました。

◎部会員

移住してきて、生活費とかはどうするのか。

◎市庁内部会副会長兼事務局

そこについては、空き店舗を使って起業してくださいですか、医療費の問題はありますが年金生活者に来てくださいとなります。

◎部会員

伊達は移住に成功したが高齢者の比率が多く医療費が大幅に増えたと聞いている。

◎部会員

東京げんきかいとか札幌のぼりべつ会には行政の職員が行っているが人脈の薄い人が行っているように感じる。

そうではなくて、市民の方がつながりをたくさん持っている、例えば同級生がどこに行っているかわかっている。

やり取りをする中で移住の話も出てくるし、そのような情報を市で集めて営業するなどしないと駄目で、ただ行って宣伝してもメリットはない。

過去に私が関係する内容のパンフレットを東京げんきかいに渡したことがあるが、何の反応もない。

それは、来た人に資料を渡しているだけで、ここにどれだけ情報提供しても人は集まってくれない。

それであれば、一般の人から移住希望者についての情報をもらって、その方にパンフレットを送ったりした方がいい。

駄目なものは方法を変えろとか、きちっと整理してやらないといけない。

◎部会員

白石市との交流にしても協議会は作っていますが、市が主体となっている。

◎部会員

まちの魅力を発信できる仕組みがあってもいいと思う。

北海道という視点で見ると、例えば他市で作っている米などの知識や情報も財産になると思う。

そういったところから行政区域の垣根を取り払った発想をしていかないと、他市のことだからではなく、お互いが良くなっていくような発想でものを考えていった方がいい。

北海道のいいものを登別に集約して、役に立つ情報を役所がフィルタをかけて、財産、知恵として残す。

それが意外とお金のかからない、まちづくりの役に立つツールになると思う。

◎市庁内部会副部長兼事務局

北海道に移住をしてください、登別に移住を、という話をしていると、函館に行った次の日に富良野に行くなど、本州の人は無謀な旅行を組んだりすることがあります。

それは北海道の縮尺をよくわかっていないからで、そういう情報は有りだと思えます。

登別だけではなく北海道の魅力も伝えていけば、距離感を含め北海道について理解してもらえますし、まずは北海道の地に引っ張り込むことをやった方がいいのではないかと考えています。

◎部会員

産業にしても、お互いの相乗効果で生きている部分があるので、お互いに共有できる形にすることが望ましい。

登別のまちに住む人を増やすことに力を入れることも大事だが、たくさん人に来てもらえばいいだけではとも思う。

◎市庁内部会副部長兼事務局

住んでもらった方が税金が入るのではないか。

◎部会員

税収のみではなく、その人たちにかかる経費もあるので、来てもらうことに特化するのも考え方だと思う。

◎市庁内部会副部長兼事務局

大体60件ほど新しい家が建てば、税収は1億円増えると言われている。

それぐらい人が住むというのは効果が大きい。

◎部会員

みんながどうやったらまちにお金が入るのかを考えれば、方法はいろいろある。

例えば、昨日だが北海道連合町内会の道南ブロック大会が登別であった。

これを運営することは、とても大変だけど自分が登別でやりますと手を挙げた。

220人が来て170人が温泉に一泊して宴会をしてお土産を買って帰った。

5年ぐらい前に環境衛生大会をクリンクルでやりたいと言ったときに、市の職員は大変だからやる余裕はないと言って手を挙げなかった。

そうではなくて、催しをやるのであれば手を挙げて、来てもらってお金を落としてもらおう。

そういう意識を市民の皆が持てば、人が集まる方法はたくさんある。
そういうことをこの計画に載せていけばいい。

◎事務局

大会などの誘致の取組みであれば、第3章の観光の分野には出てきています。

◎市庁内部会副部長兼事務局

ここではなくても計画全部の中で見れば入ってきます。

もちろん第6部会として思いをいただきますので、そういうものがあってもいいと思います。

◎市庁内部会副部長兼事務局

いろいろと協力いただいた全国大学政策フォーラムも最初は行政が初めて、生徒100人に先生が引率すれば結構な人数になるので、一定の効果があるものと考えました。

それで十分だと思います、さらに将来歳を取ってから、登別が良かったからもう一度行こうかなと思ってくれればいいと思います。

◎部会員

そういう目で見えてくれる人が少ない。

やって何になるという感覚で見られることが多く、人が集まるということはそれだけ登別が潤うということだと思う。

そのようなPRがない。

◎部会長

昨日講演をして嬉しかったのは、風呂や食堂などでいろいろ話を聞かれたり、昨日の話は良かったなどとお話ができ、今言ったような経済効果もあるが、人と人のつながりがうれしい。

◎市庁内部会副部長兼事務局

交流は、人と人との繋がりですから、気持ちが無いままの交流はすぐに終わると思います。

◎部会長

それでは今日の部会は終了したいと思います。

次回の開催ですが、次回は10月17日（金）に開催します。

お疲れ様でした。